

私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています



# 土浦平和の会

ニュースNo.172 2006年 9月

発行 土浦平和の会

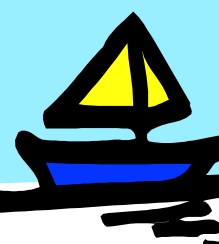
事務局 土浦市神立町2664-2

TEL 831-9122

URL [http://www.geocities.jp/ino011\\_jp/](http://www.geocities.jp/ino011_jp/)

## 06年 平和の旅

とき 10月15(日)16(月)  
ところ 千葉県 館山方面(戦跡をめぐる)  
宿泊地 白浜野嶋温泉(ホテル南海荘)  
費用 2万円(交通費、宿泊費)  
締切り 9月30日(土)



見学場所、コースは検討中です。希望があれば申し出てください。

参加人数は20人を予定しています。

私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

## 磯さんが語る 戦争体験

9月2日午後10時 教育テレビで「祖父の戦場を知る」という番組が放映されました。

その中で、中村南在住の磯清十郎さんが子供にも孫にも話したことが無い戦場の体験を語っています。渡辺初世さんからの紹介で磯さんの手記を2回に分けて掲載します。

### 銃殺されるも奇跡的に蘇生し唯一人生還する・その・・・

茨城県土浦市磯清十郎(八十二歳)

黒竜江省孫呉の勝武屯川村中隊が私の初年兵時の部隊である。その後転属になり、一二三師団一〇二〇部隊挺進大隊に入った。原っぱの中のバラック兵舎で毎日毎晩、夜間の演習ばかりで過ごしていた。笠間少尉と八月九日に荒神山陣地に入り、同日夜、国境の勝武屯に向かって出発した。

ところがソ連の機甲部隊は勝武屯から侵入してきたのである。我々は国境でソ連戦車にかわされ、攻撃に失敗した。孫呉に戻り秋月山陣地に入ったのが十五日の夕方、部隊はすでに全滅していた。

陣地はソ連機甲部隊に包囲され、日暮れから砲撃にさらされた。朝方、静かになったとき、本部を見に行った兵隊が「この山にいるのは俺達だけだ。本部には誰もいない。二本松高地に集結せよ」と黒板に書いてあった」と報告した。我々は取り残されたのだ。ソ連軍に一番近い陣地だったから急いで撤退した。後方の塹壕には兵が土をかぶって果てていた。

一本松高地に集結したのは四、五百名であった。炊飯の準備にかかろうとしている時、敵機に発見された。気づいた時にはまたもや包囲されていた。今度は白昼で、戦車は三方からジリジリ迫ってきた。特攻隊員が爆弾を抱えて突っ込んでいったが、戦車からまるでゴムホースで水を撒くごとく機銃を浴びせられ、近づくことさえできずなぎ倒されてしまった。露木大尉は仁王立ちになって突撃を指揮していたが、銃弾に倒れた。

巨大な戦車はキャタピラで負傷者を踏みつづし迫ってくる。追い詰められたところは断崖の上だった。万事休すである。かくなる上はと、身一つになって絶壁を飛んだ。腰の帯剣の柄が木の枝に引っかかり、宙吊りになりながらも谷底に降り立つことができた。

絶壁に追い詰められたのは二、三十名だったと思う。他の兵はどうなったのだろう。ソ連戦車の犠牲になったとしか思えない。下から見上げると絶壁は十数メートルはあった。よくも助かったものと思う。崖の底から対岸の岩にしがみつき、今度は岩を登った。

戦車から逃れたが、低空飛行の銃撃はしっこかった。立木に助けられながら進んだ。仲間は十人ぐらいになっていた。米一粒持たず、食糧は何もない。ドングリやキノコなど手当たり次第に食った。揮者もない烏合の衆が友軍を求めて南を目指した。山中の小屋に老夫婦がいた。

「スパイだ、通報される」と殺してしまった。我々の神経はすでに人間のものではなくなっていたのだ。(つづく)

### 活動ごよみ

9・3 県平和委理事会(水戸市青少年会館)

9・16 平和の会理事会(保健生協土浦事務所)

9・23 教育基本法学習会(一中地区公民館)

9・24 平和委全県活動交流会(石岡青少年会館)

10・14 教育基本法首都圏大集会

10・15~16 平和ツアー(千葉館山方面)